

令和4年度宇部市プレミアム付商品券 アンケート調査結果分析報告書

令和5年2月28日

受託事業者：宇部商工会議所

【目 次】

I. 市民向けアンケート調査

- 1. 実施概要 3～4
- 2. アンケート調査分析結果 5～11
- 3. 市民向けアンケートのまとめ 12

II. 参加店舗向けアンケート調査

- 1. 実施概要 13
- 2. アンケート調査分析結果 14～19
- 3. 参加店舗向けアンケートのまとめ 19

III. 経済波及効果分析結果

- 1. 消費総額・消費喚起額の整理 20～22
- 2. 市内需要増加額の算出 23
- 3. 経済波及効果の試算結果 24～25
- 4. 総評 25
- <別添>経済波及効果(総合効果)の部門別内訳 26

IV. 資料

- 1. 市民向けアンケート調査票 27～28
- 2. 参加事業者向けアンケート調査票 29～30

I. 市民向けアンケート調査実施概要

(1) 調査の目的

商品券購入・利用者の意見を分析し、今後の商品券発行事業の改善・発展に役立てるため

(2) 調査対象

商品券を購入された各世帯

(注) 商品券を購入された世帯の代表者に本アンケートは回答してもらっています。

(3) 調査方法

調査票は郵送、返信用封筒による回答

(4) 調査期間

令和4年11月2日(水)～令和4年12月23日(金)※当日消印有効

(5) 配布・回収

・郵送数 26,526件

・回答数 13,237件

・回答率 49.9%

(6) その他

アンケートに回答していただいた市民の中から抽選で100名に「うべわくわく市場」の商品5,000円相当をプレゼントしました。なお、当選者に対しては下記の商品カタログを郵送し、返信ハガキにて注文を受け付けました。

*** 令和4年度宇部市プレミアム付商品券 アンケート調査プレゼントカタログ ***

食品	① キムチ 食べ比べセット	② 醤油もつ鍋セット (5~6人前)	③ 菜もつ鍋セット (5~6人前)	④ 商業部ハム・ ソーゼツ
	焼肉 まるじゅう	焼肉 まるじゅう	焼肉 まるじゅう	ザリカアサシシ エルスナン
⑤ 五豆ば (2~3人前) 海鮮・ちくわ セット	⑥ 海鮮・フーメン セット	⑦ 宇部かま 「ひるさと漬」	⑧ うべっちゃん総合せ	⑨ 豊川日本・徳蔵2本 綜合せ
⑩ お土産ラーメン6 食・きょうご2食	⑪ 冷凍生餃子 18個入×6セット	⑫ 冷凍生餃子 18個入×3セット	⑬ カレー味増らめん 6食入	⑭ カレー味増らめん 冷凍生餃子 18個入×2セット
⑮ カレー味増らめん 冷凍生餃子 18個入×2セット	⑯ 漬物とらふく野巻 (1~2人前)	⑰ 餃子18個入×2・ク レシホ・スープ6食	⑱ 鶏もも肉すき焼き キ・シホボセット (コース) 300g	⑲ 鶏もも肉すき焼き ハンバーグ4個入
⑳ キッシュコロレマ 大 (18食)	㉑ おひとり餅 ちよいのみセット	㉒ パン10個・ 焼餅4個 餅め合わせ	㉓ ナッツ& ドライフルーツ 4食セット	㉔ カラーポット3本 ・ナッツパン4食
㉕ コーヒーリップ パックセット	㉖ 山口茶 煎茶3種 蒸茶、玄米茶	㉗ 専農・専農農の 総合せ	㉘ つげ餅・五豆ば・ 牛骨フーメン 3食セット	㉙ つげ餅 10個セット (20食入)

うべわくわく市場

※各商品の価格はイメージです。

*** 令和4年度宇部市プレミアム付商品券 アンケート調査プレゼントカタログ ***

お菓子 酒類・飲料	⑩ カステラ2本セット	⑪ チョコレート カステラ	⑫ カステラ・ まんじゅう 詰め合わせ	⑬ 小川のゼリー 度ゼリ
	小川製菓本舗	小川製菓本舗	小川製菓本舗	小川製菓本舗
⑭ 月でひろった餅 フレーン・小町茶 セット	⑮ 宇部ダイヤ アムレット10個入	⑯ 大特製ケーキ貴	⑰ プランデーケーキ エクセレント版	⑱ 焼きたiramis
⑲ 山口茶・たまご ティラミス 詰めセット	⑳ パスチーズケーキ	㉑ オリーブおから クッキー	㉒ 長州塩いちご アイスセット	㉓ 宇部の 生菓シロップ 詰めセット
㉔ 新ワイングローブ 赤750ml	㉕ 和酒ケーキ・焼酎 セット	㉖ 入浴剤ボトル 2本セット	㉗ フレッシュ ミルクローション	
㉘ フレッシュ セラムマスクク ン(10枚)	㉙ 洗顔パウダー 3個セット	㉚ 毎日のお 風呂セット	㉛ 専農産みがさ 天然保湿/本セット	㉜ はるほのか お茶シャンプー 300ml
㉝ bambina クレンジングオイル	㉞ bambina ミネラルローション	㉟ bambina 保湿ミルク	㊱ ミニ等 "他" 3個セット	㊲ 宇部みストール (イエロー)

うべわくわく市場

※各商品の価格はイメージです。

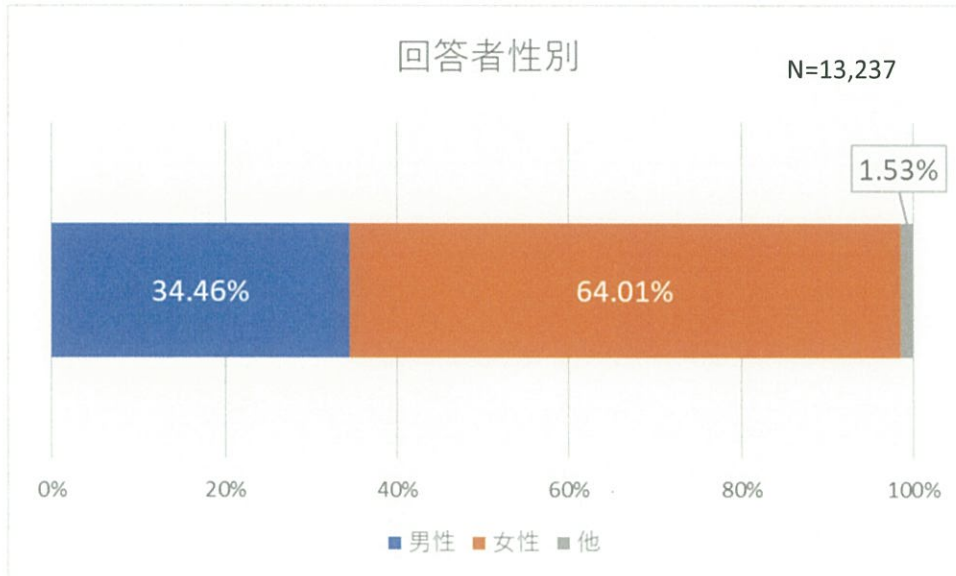
市民向けアンケート調査分析結果

1. 回答者属性

【性別】

本アンケートは女性が全体の約64%、男性が約34%回答しています。

(注) 本アンケートは宇部市プレミアム付商品券購入者を世帯別に集約し、世帯を代表して1名の方に回答してもらっています。



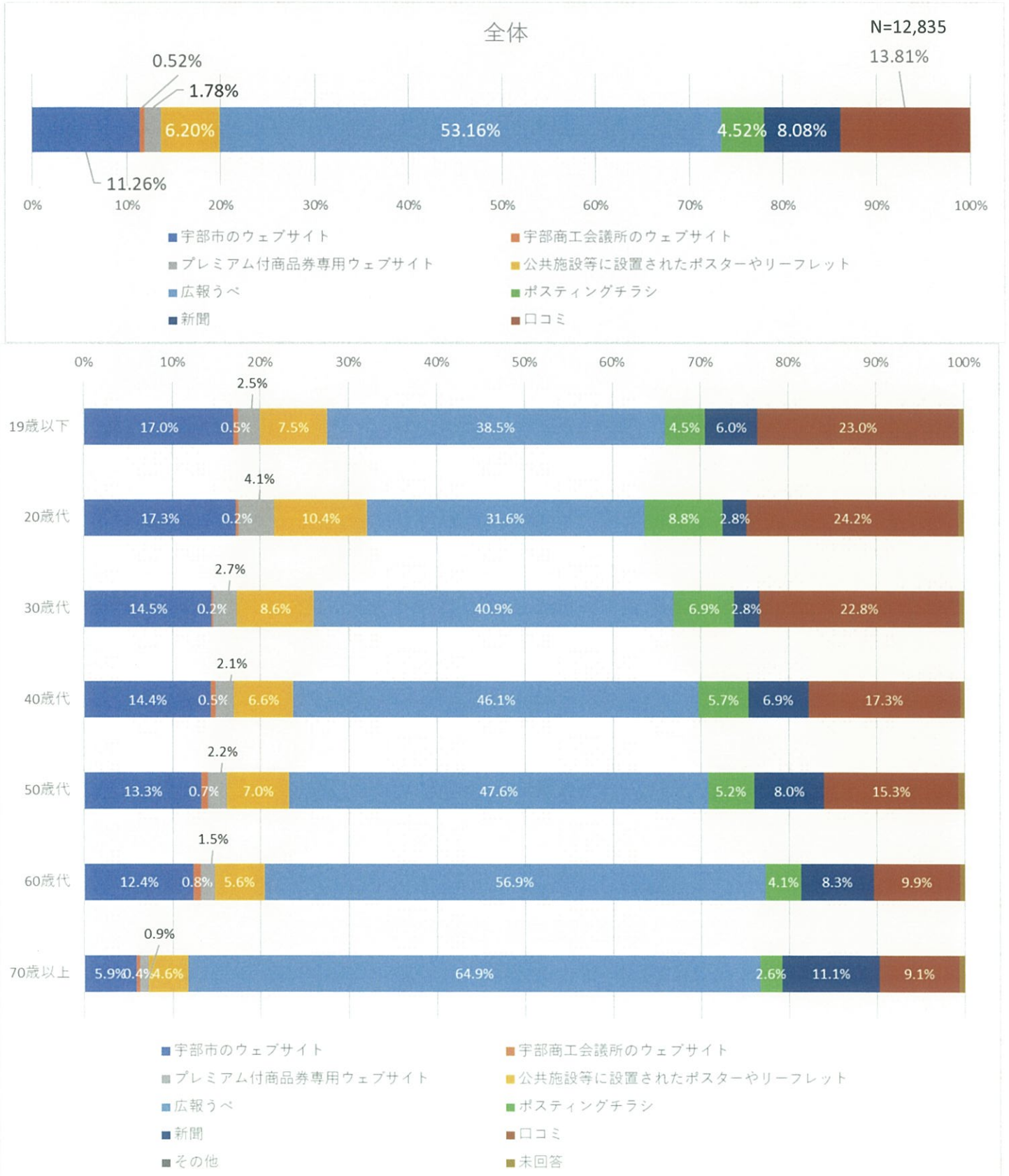
【年齢】

本アンケートは60歳代以上の方が約51%を占め、シニアの方の回答割合が高いことが特徴です。逆に、若年層の回答率は20歳代が約4%、30歳代が約10%となっています。



問1 宇部市プレミアム付商品券の事業を知ったきっかけは何ですか。該当する項目を1つ選択してください。

本事業を知ったきっかけで最も多いのは「広報うべ」の約53%で、次に「口コミ」の約13%、「宇部市のウェブサイト」の約11%の順となっています。このことから、商品券事業を市民に認知してもらうためには宇部市の広報が必要不可欠だと云えます。

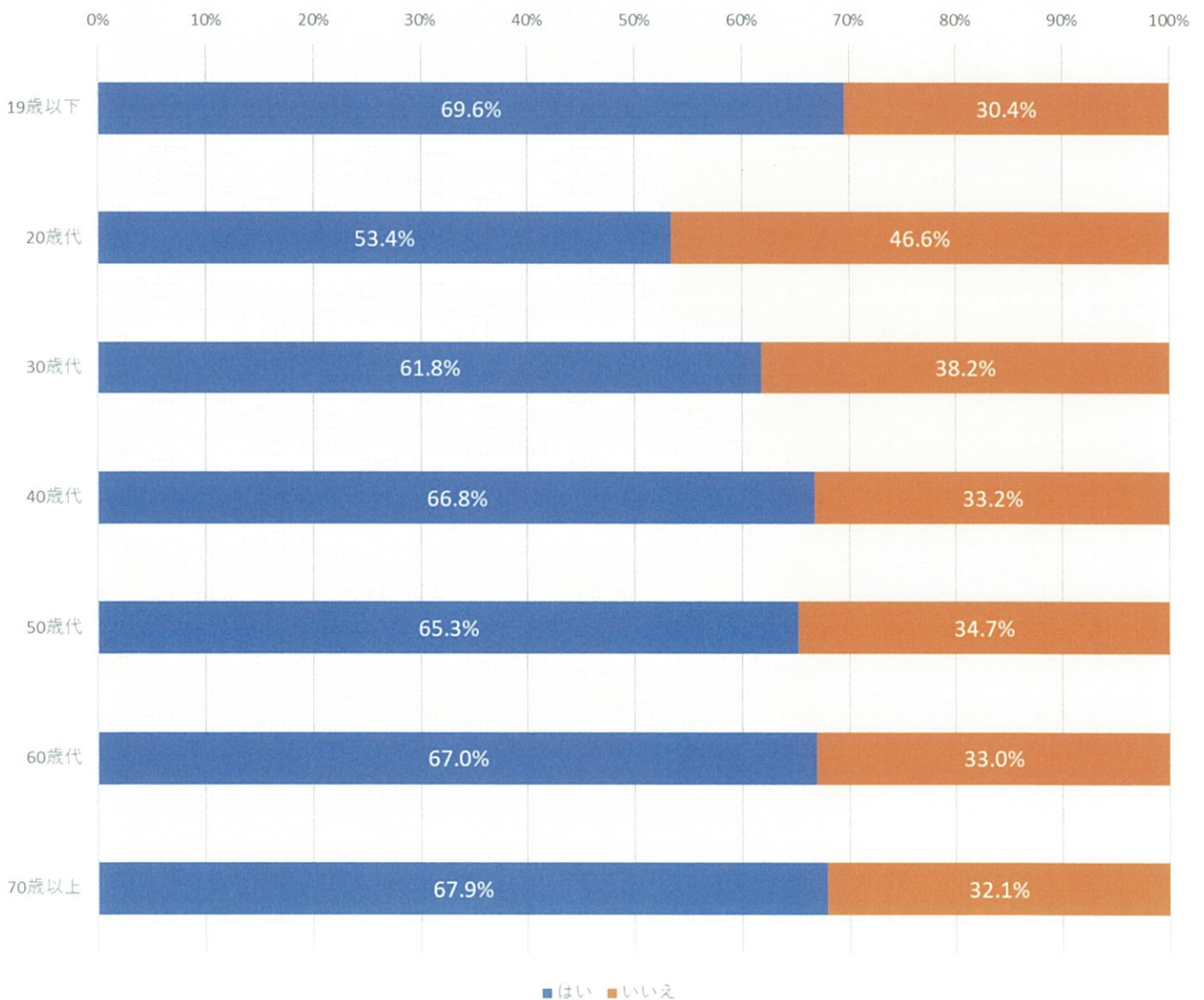
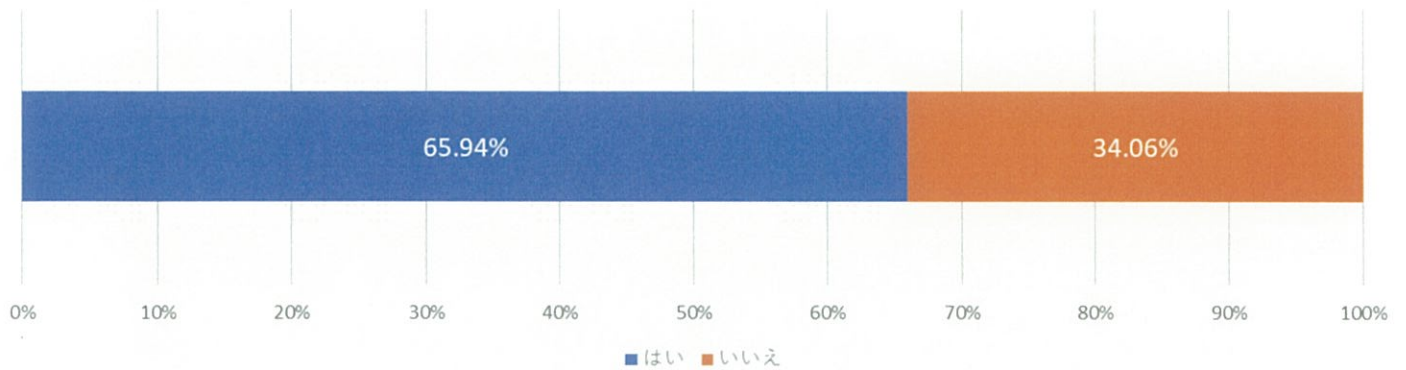


問2 昨年(令和3年)度に販売した宇部市プレミアム付商品券は購入されましたか。

本アンケートに回答した約3分の2(約66%)が昨年(令和3年)度に販売した宇部市プレミアム付商品券を購入されています。

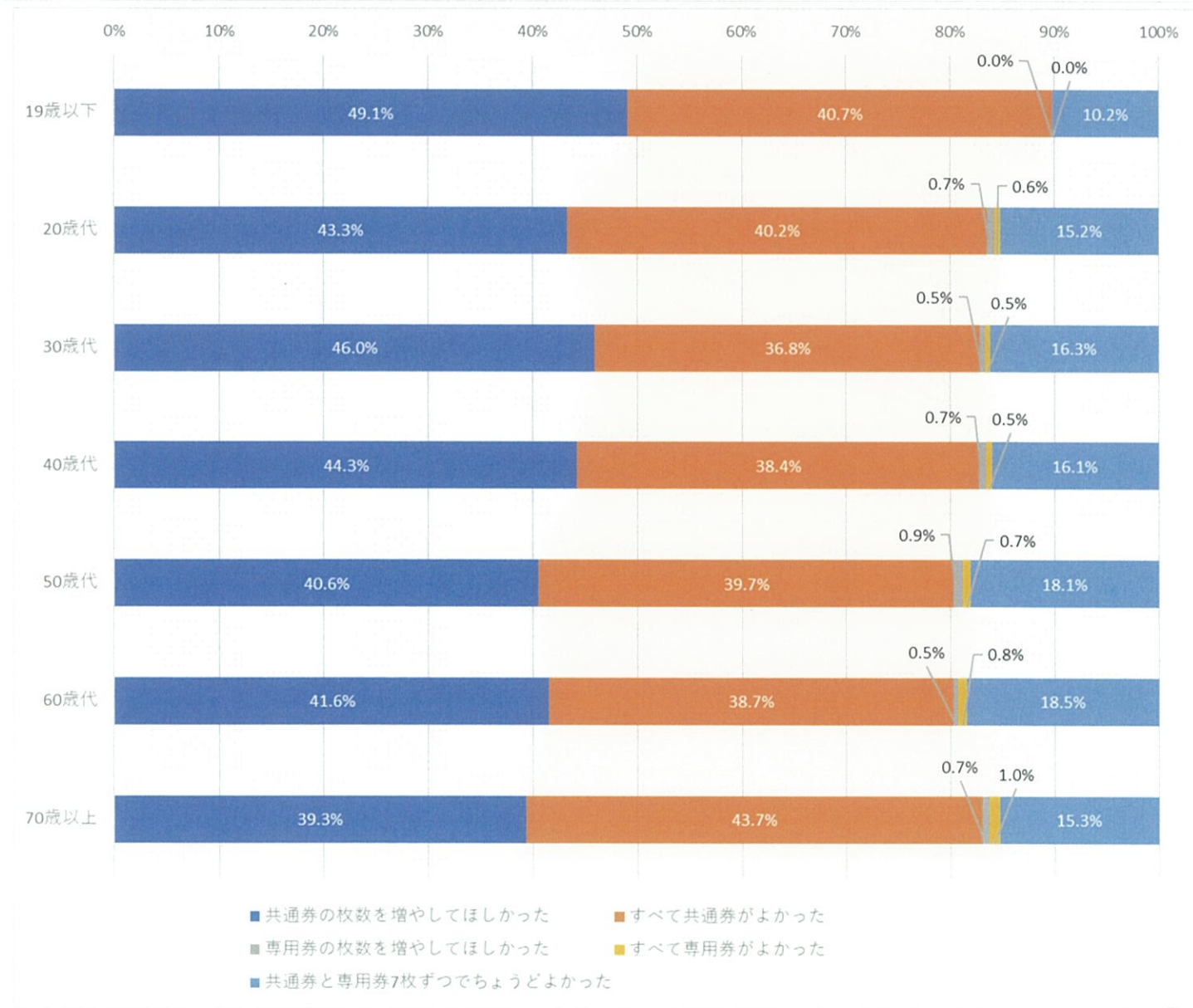
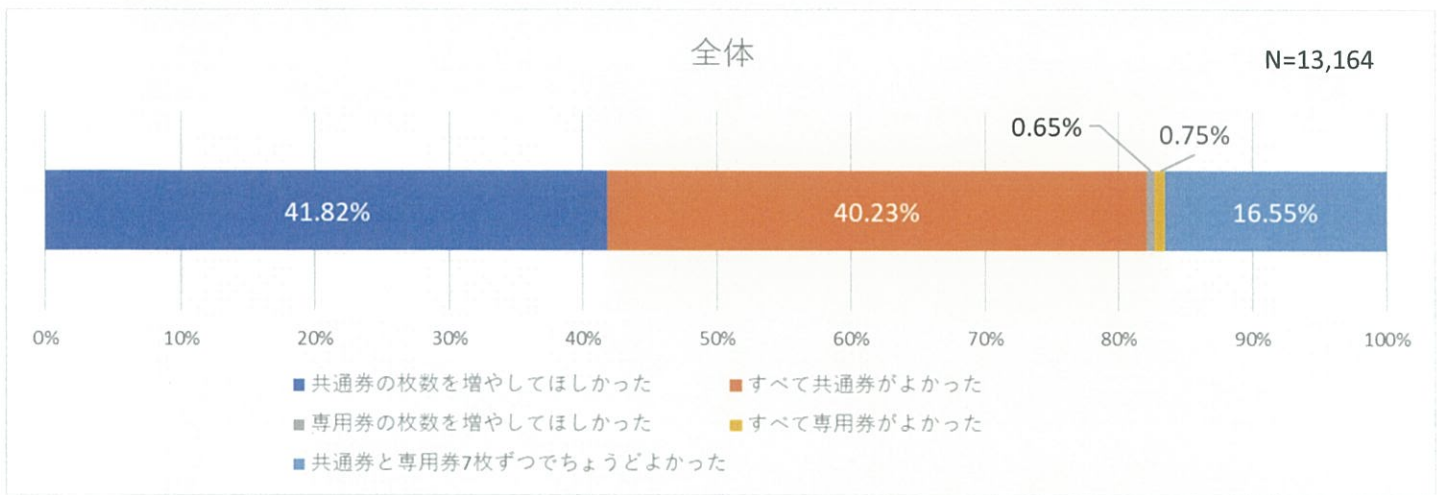
全体

N=13,237



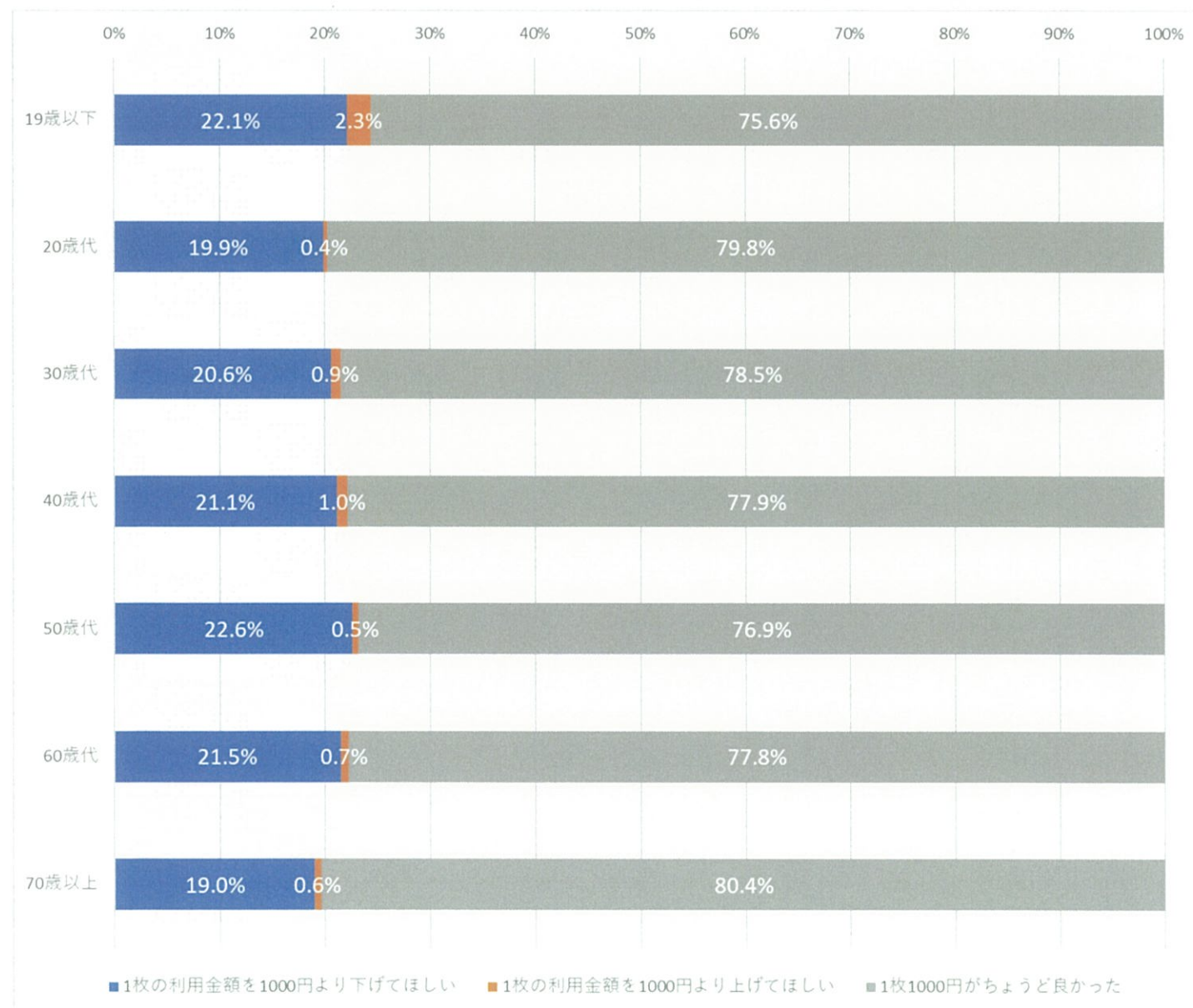
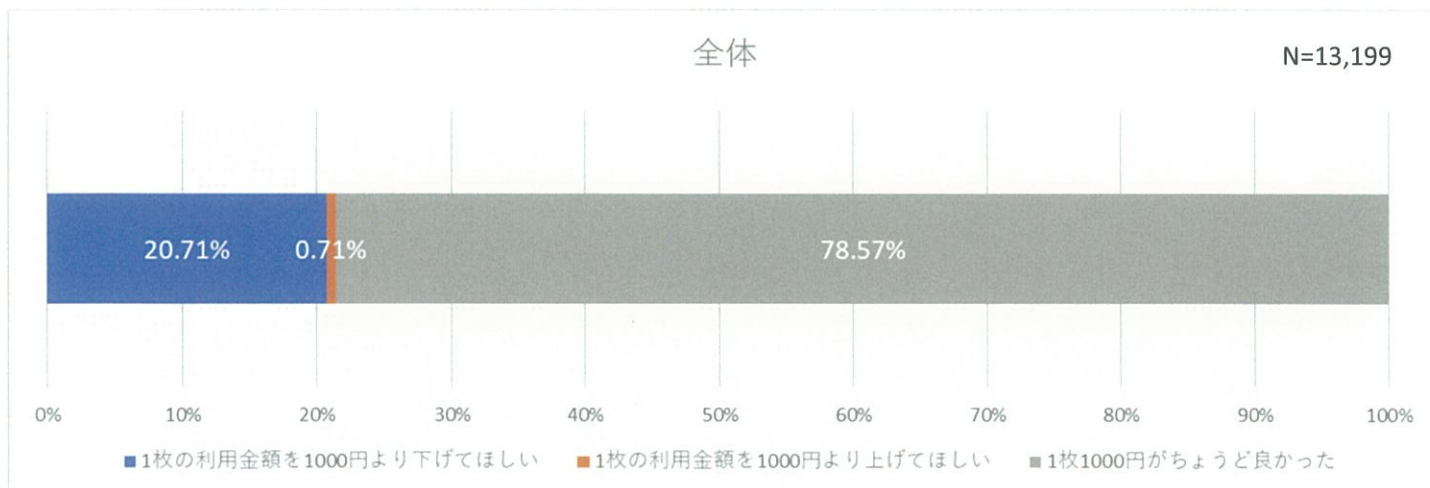
問3 1セットのうち、共通券と専用券の割合について教えてください。

「共通券の枚数を増やしてほしい」と回答した方が約41%で最も多く、「すべて共通券がよかった」と回答した方と合わせると約8割の方が共通券の割合を増やしてほしいと考えています。「共通券と専用券7枚ずつでちょうどよかった」と回答した方は約16%しかいませんでした。



問4 商品券1枚1,000円の利用金額設定について教えてください。

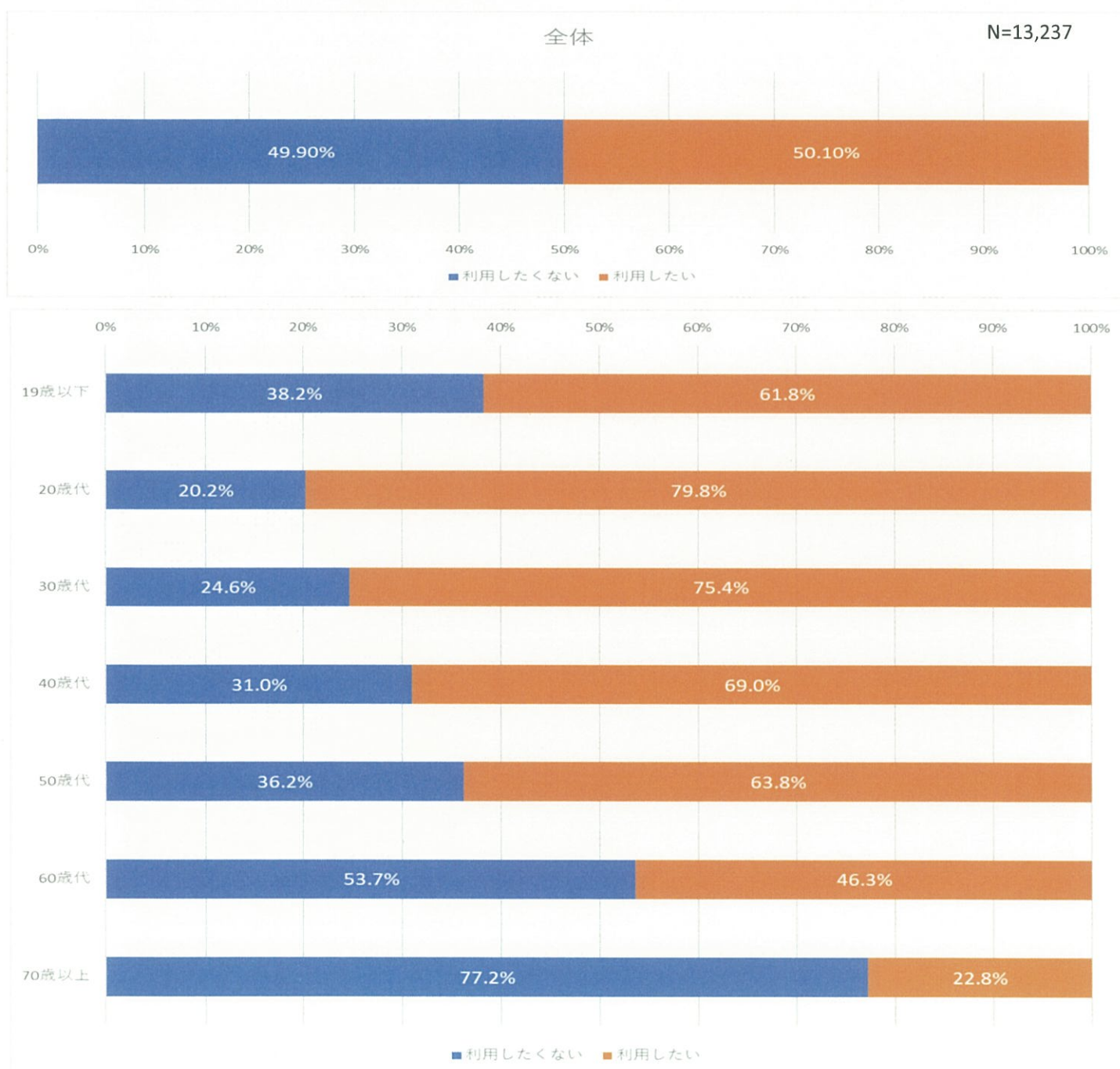
商品券の利用金額設定では、「1枚1,000円がちょうど良かった」と回答した方が約8割を占め、大多数でした。



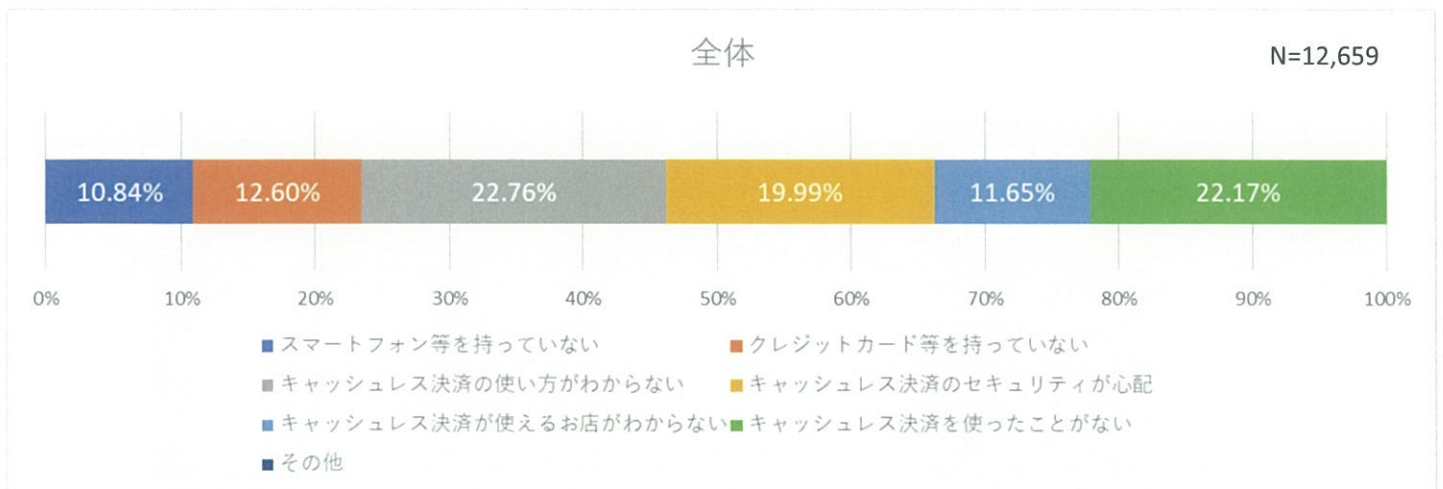
問5-1 宇部市プレミアム付商品券の購入・利用が現金以外での決済
(キャッシュレス決済)のみとなった場合、利用したいと思いますか。

宇部市プレミアム付商品券の購入・利用が現金以外での決済
(キャッシュレス決済)のみとなった場合、「利用したくない」と回答した割合と「利用したい」と回答した割合はほぼ同数でした。

また、最も回答が多かったのは「キャッシュレス決済の使い方がわからない」の22.76%で、次に「キャッシュレス決済を使ったことがない」の22.17%、「キャッシュレス決済のセキュリティが心配」の19.99%となっています。本アンケート回答者の約半数が60歳代以上であることから、シニア世代においてあまりキャッシュレス化が進んでいないことが推測されます。



問5-2 5-1で「利用したくない」と回答された方にお聞きします。
 主な理由を最大3つ選択してください。(複数回答可)



<自由意見>

自由意見欄に記載していただいた内容をキーワード別に集約した結果は次のとおりです。有効回答者数9,421件。

- 「良かった」……………2,948件(31.2%)
- 「実施してほしい」……………2,202件(23.3%)
- 「共通券が多い方がよい」……………541件(5.7%)
- 「抽選に不満」……………483件(5.1%)
- 「500円券があった方がよい」……………432件(4.5%)
- 「購入限度額がもっと多い方がよい」……………374件(3.9%)
- 「キャッシュレス決済の方がよい」……………318件(3.3%)
- 「券の使用期間をもっと長くしてほしい」……………111件(1.1%)
- 「アンケートがわかりにくい」……………109件(1.1%)
- 「プレミアム率を上げてほしい」……………61件(0.6%)

その他

- 「他市のように市民一律のクーポンにしてほしい」17件
- 「普段あまり行かないお店に行くことができた」16件など

【市民向けアンケートのまとめ】

初めに市民向けアンケートについては、商品券購入世帯単位に調査票を送付させていただきましたが、非常に多くの市民の方にご回答をいただきました。心から感謝いたします。(回答率49.9%)

回答者の多くが女性で60歳以上のシニアの方でしたが、今後、宇部市がプレミアム付商品券事業を行う上で貴重なデータを得ることができました。アンケート調査の末尾にある自由意見欄をキーワード別に集計すると54.5%の方が「良かった」又は「実施してほしい」と回答しており、本事業が商品券購入者にとって高評価であったことがわかります。

高評価の要因として次の3点が考えられます。

- ①宇部市の広報により、本事業に多くのお店が登録しており、市民にとって魅力的な事業であることを訴求できたこと。
- ②シニア世代の商品券購入者に配慮し、商品券をデジタルではなく紙のみで発行したこと。
- ③換券場所として、郵便局や土日に換券できる市内大型店の協力を得ることができ、商品券購入者にとって換券時の利便性が高かったこと。

一方、宇部市でプレミアム付商品券を購入される市民の方には次の5点の傾向があることがわかりました。

- ①商品券事業を認知する広報ツールとして「広報うべ」が多数であること。(約53%)
- ②プレミアム付商品券購入者のリピート率が非常に高いこと。(約66%)
- ③商品券1セットのうち共通券の割合を増やしてほしいと考える市民が大多数であること。
(「共通券の枚数を増やしてほしい(41%)」と「すべて共通券がよかった(40%)」を合算すると81%)
- ④商品券の利用が現金以外での決済(キャッシュレス決済)のみとなった場合、「利用したい」と回答する市民が50%いること。
- ⑤商品券の利用が現金でしか決済できない市民が約20%存在すること。(「クレジットカード等を持っていない(約20%)」)

今後、宇部市においてもDXの波は回避できないと思いますが、商品券・クーポン事業をキャッシュレスやデジタルで行う際は、「現金でしか決済できない市民」に対して懇切丁寧な対応や配慮を行っていくことが課題であると感じました。

最後に、アンケート調査を行った際、自由意見欄に9,421名の市民の方から貴重なご意見をいただいたことを考えると、本事業に関する市民の関心が非常に高かったことが推測できます。

Ⅱ. 参加店舗向けアンケート調査実施概要

(1) 調査の目的

商品券参加事業者の意見を分析し、今後の商品券発行事業の改善・発展に役立てるため

(2) 調査対象

本事業に参加申込のあった店舗

(3) 調査方法

調査票は郵送、回答方法は①郵送、②FAX、③Webの3種類

(4) 調査期間

令和4年11月14日(月)～令和5年1月31日(火)

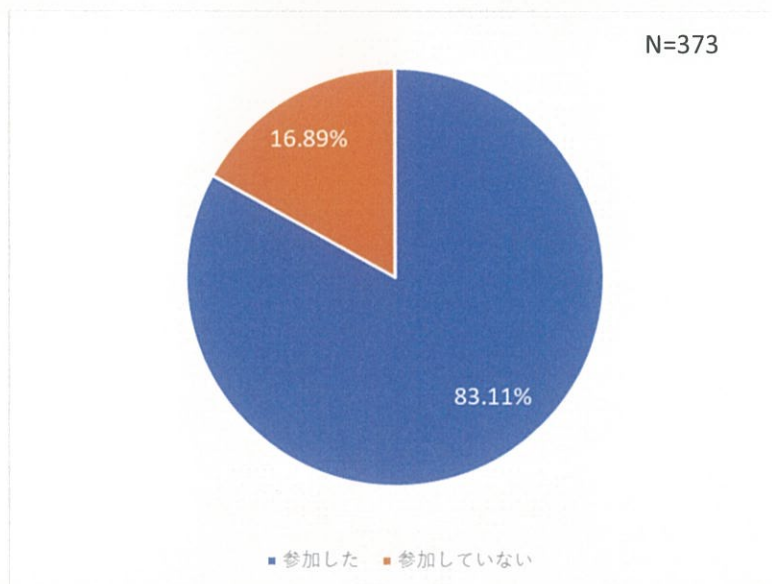
(5) 配布・回収

- ・郵送数 963店
- ・回答数 376店
- ・回答率 39.0%

参加店舗向けアンケート分析結果

問1. 昨年度の宇部市プレミアム付商品券事業には参加されましたか。

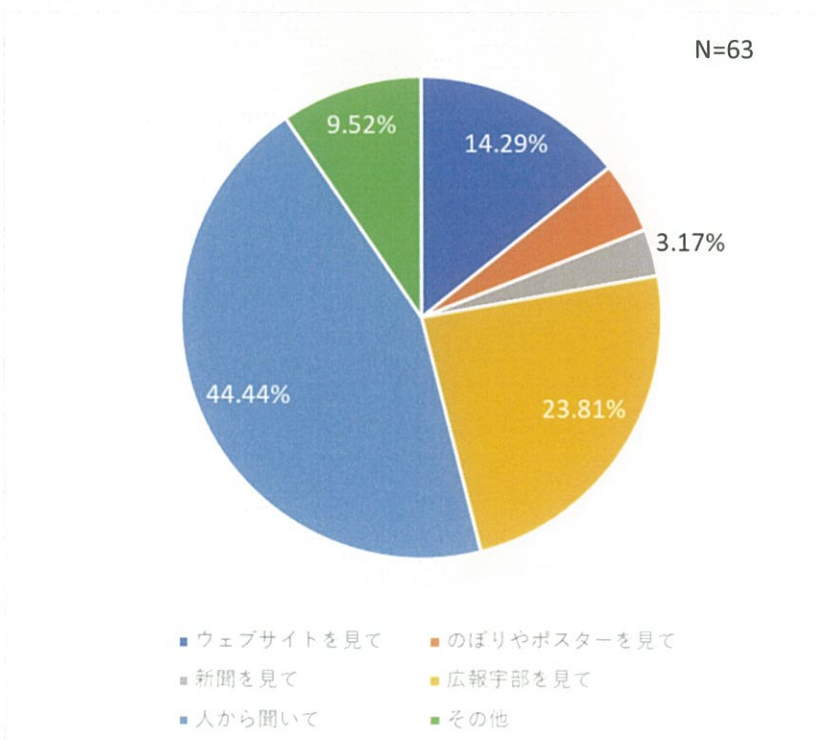
本アンケート調査では、約83%の事業者が昨年度（令和3年度）の宇部市プレミアム付商品券事業に参加しています。



問2. 宇部市プレミアム付商品券の事業を知ったきっかけは何ですか。

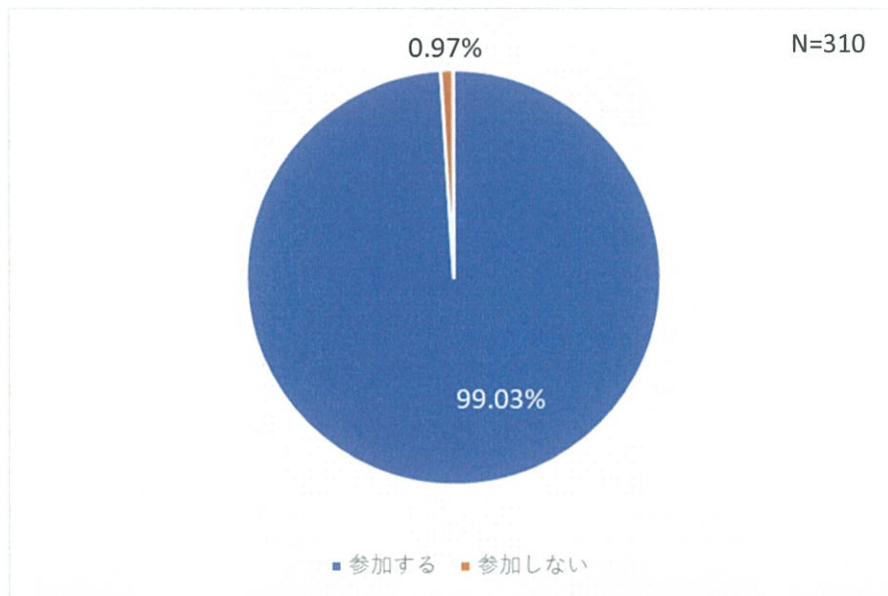
本事業を知ったきっかけで最も多いのは、「人からきいて」の約44%で、次に「広報宇部をみて」の約24%が多いです。

(注) 本設問に関する有効回答数は63事業所で、他設問の回答数と比較すると回答数がかなり少なくなっています。理由として、本事業実施前に宇部市担当部署から昨年度のプレミアム付商品券の参加店に対して、本事業における参加店の登録依頼が行われているため、本設問に回答する事業所が少なかったのではないかと考えられます。



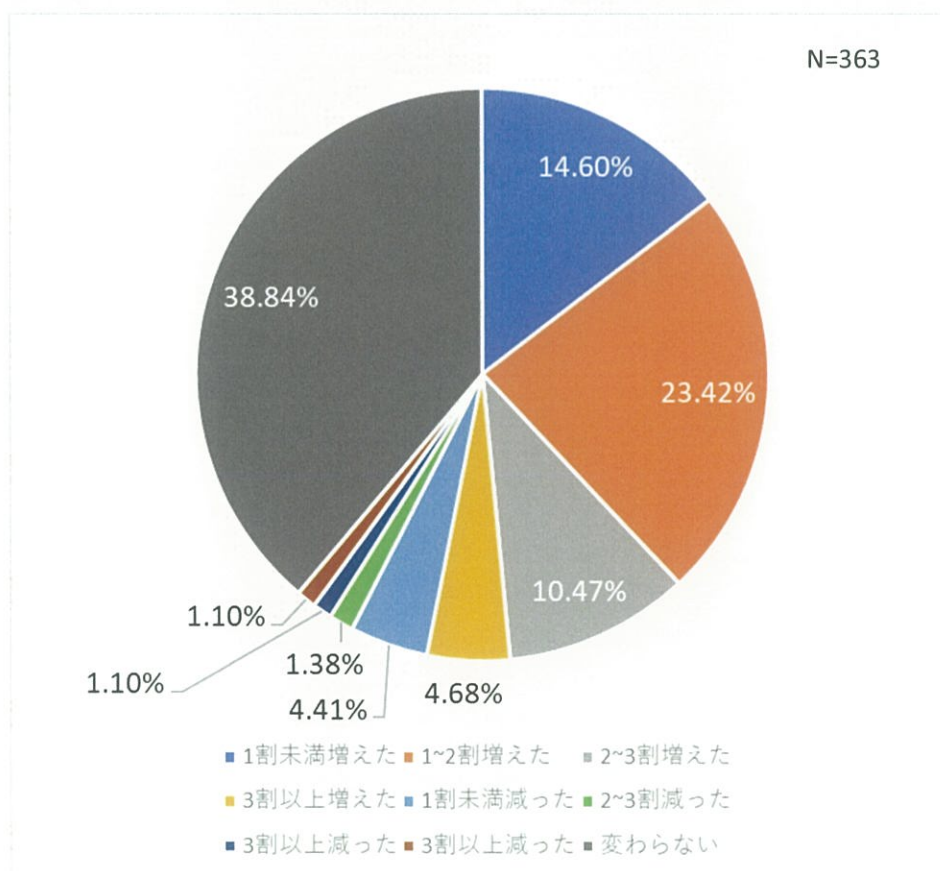
問3. 今後、同様の事業が仮に再度行われる場合、また参加されますか。

約99%の事業者が今後、同様の事業が行われる場合、「参加する」と回答しています。



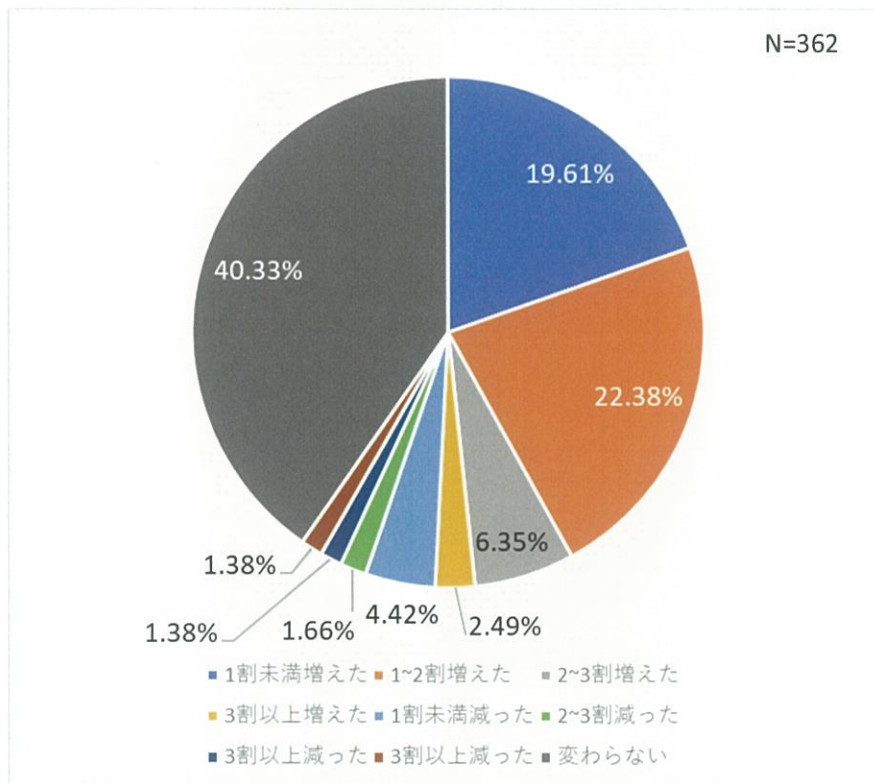
問4. 昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均客数は増えましたか。

昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均客数が「変わらなかった」と回答した割合が約38%と最も多く、次に「1~2割増えた」が約23%、「1割未満増えた」が約15%となっています。



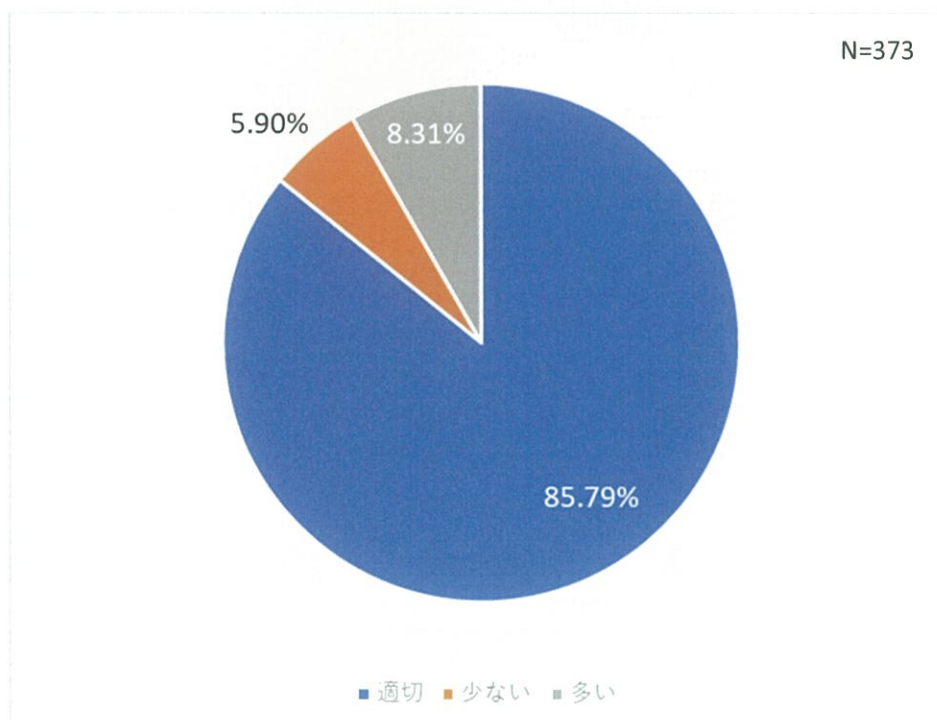
問5. 昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均売上は増えましたか。

昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均売上が「変わらなかった」と回答した割合が約40%と最も多く、次に「1~2割増えた」が約22%、「1割未満増えた」が約20%となっています。



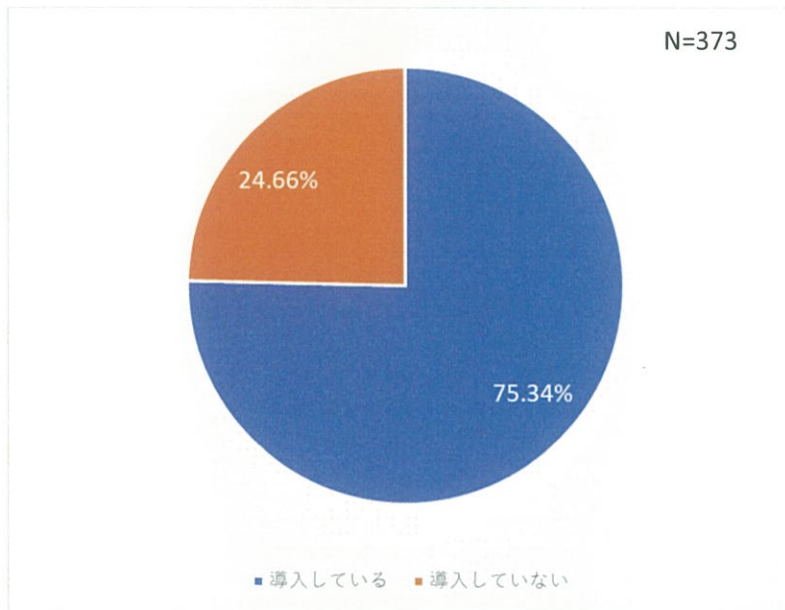
問6. 換金の頻度（月3回）は適切だったでしょうか。

換金の頻度（月3回）が「適切」と回答した割合が約86%と大半でした。



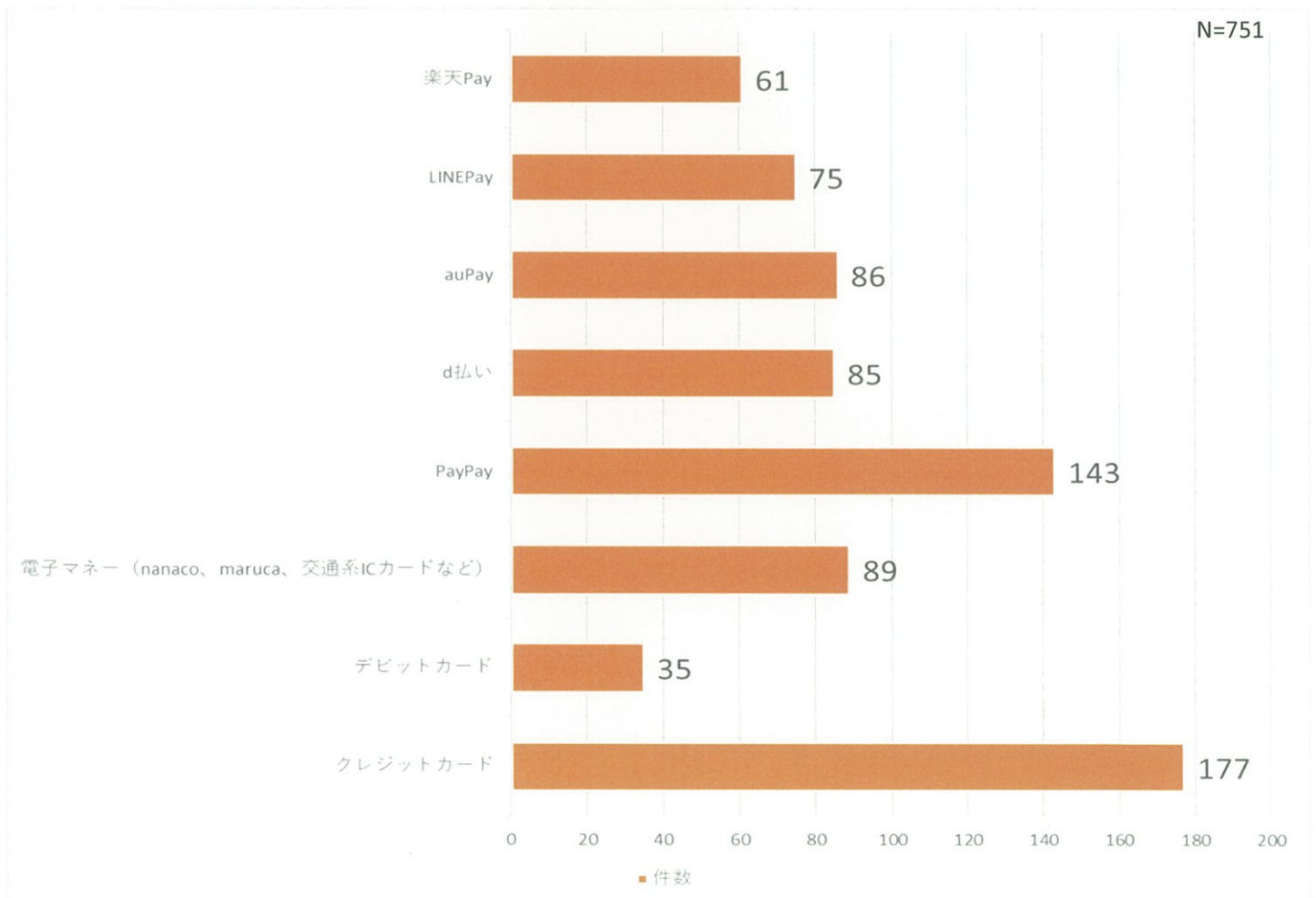
問7. 店舗において現金以外の決済手段を導入していますか。

参加店の多く(回答者の約75%)が店舗のキャッシュレス化に取り組んでいることがわかりました。



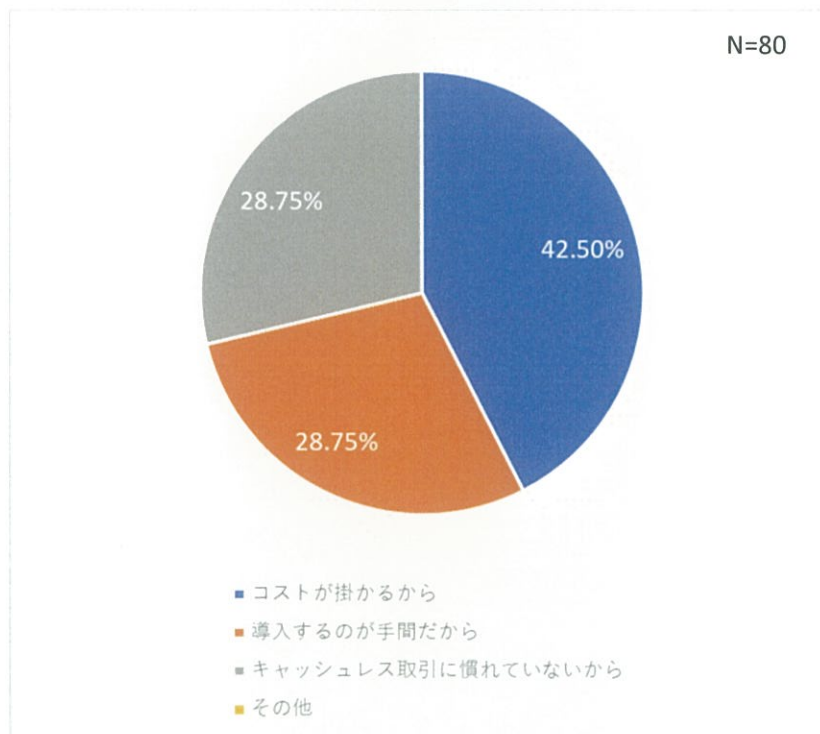
問8. 導入している決済手段の種類は何ですか。(複数回答可)

決済手段として「クレジットカード」が177件と最も多く、「PayPay」が143件、「電子マネー」89件、「au Pay」86件、「d払い」85件となっています。



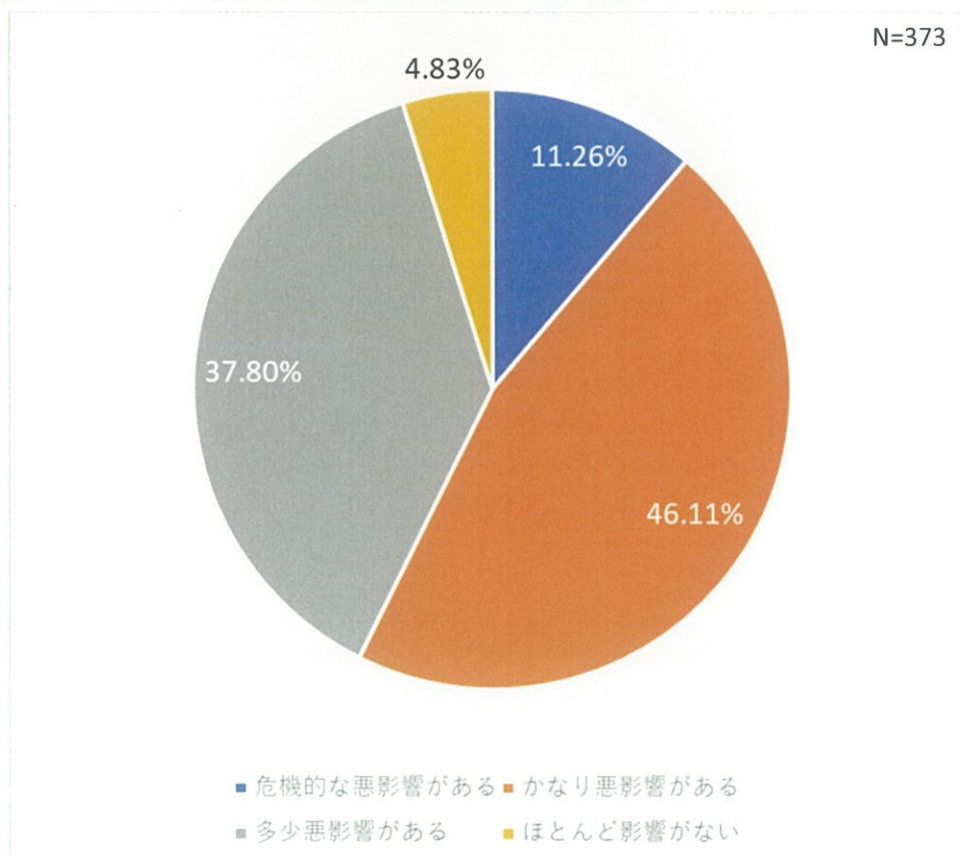
問9. 導入していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。

キャッシュレス決済を導入しない理由で最も回答が多かったのは「コストが掛かるから」の約42%でした。



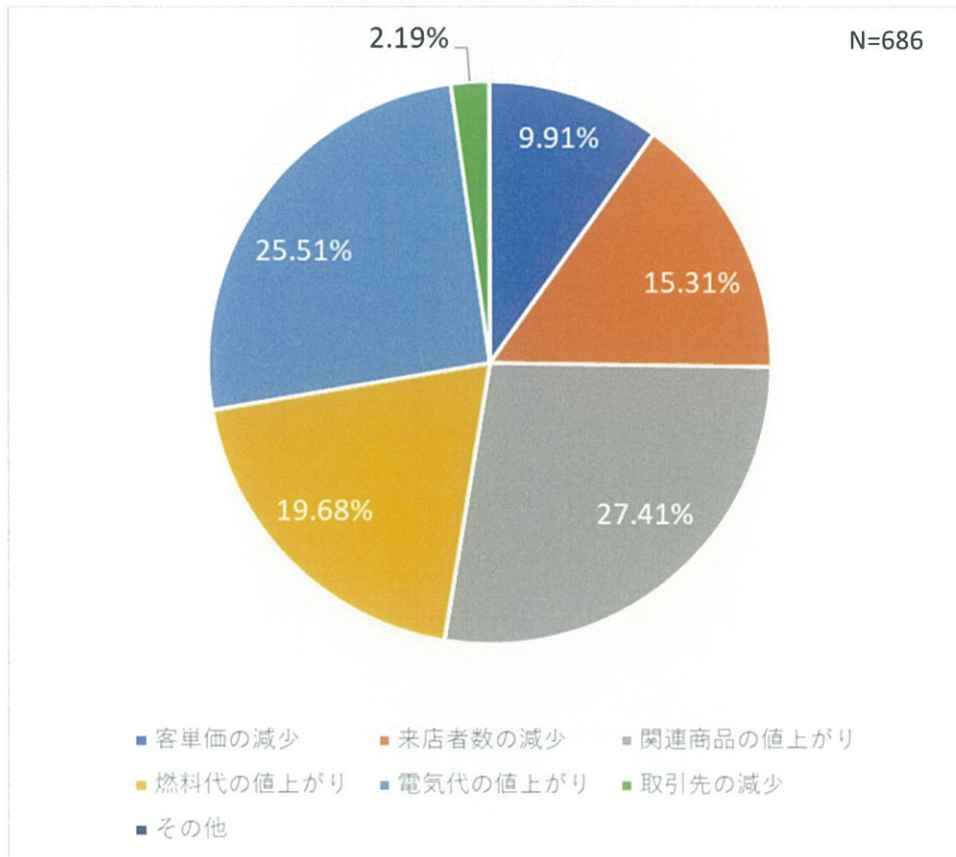
問10. 燃油・原材料・仕入価格の上昇による経営への影響はどの程度でしょうか。

燃油・原材料・仕入価格の上昇による経営への影響については「かなり悪影響がある」と回答した割合が約46%で最も多く、次に「多少悪影響がある」の約37%となっています。



問11. 悪影響の内容として該当するもの全てに○を付けてください。

燃油・原材料・仕入価格の上昇による経営への影響の内容として、最も回答が多かったのは「関連商品の値上がり」の約27%で、次に「電気代の値上がり」の約25%、「燃料代の値上がり」の約19%の順に回答が多くなっています。



【参加店舗向けアンケートのまとめ】

再度、本事業が実施される場合、参加店の約99%が「参加する」と回答しており、参加店の本事業に対する評価は非常に高かったと思います。

高評価の要因として次の3点が考えられます。

- ① 宇部市の協力により、前年度参加店の本年度事業への参加がスムーズに行え、商品券募集時に多くの参加店の登録を行えたこと。
- ② 中小参加店に配慮し、換金頻度を月3回にしたこと。(約85%が適切であると回答)
- ③ 市内に本社を置く中小店でも使用できる専用券を発行したことで、市外に本社を置くチェーン店を含めた参加店全体の満足度が高かったこと。

一方、キャッシュレス化については参加店の約75%が何らかの取組を行っているとは回答していますが、「コスト」や「手間」を理由にキャッシュレス化に対して後ろ向きな参加店が根強くいることがわかりました。今後、市内でキャッシュレス化の取り組みを行っていく上で、キャッシュレス化に躊躇しているお店に対してきめ細やかな対応を行っていくことが課題であると感じました。

最後に、市内に本社を置くお店(主に中小店)を応援する本事業の目的は概ね達成することができたと考えられます。

Ⅲ. 経済波及効果試算

【1】消費総額・消費喚起額の整理

換金データに基づく換金総額は、商品券での支払い総額に該当します。

商品券での支払い内訳は、市民向けアンケートの「①普段の買い物を商品券で支払った金額」と、「②商品券があったので購入を決めた金額」の構成比により、換金総額を按分することで求められます。

以上により推計した結果は、下図表1のとおりです。商品券の支払い総額は、「①普段の買い物を商品券で支払った金額」が6億7,067万円、「②商品券があったので購入を決めた金額」が4億4,527万円となりました。

図表1 「商品券での支払い」内訳推計結果

商品券の使用目的	商品券額構成比	換金総額(万円)	内訳推計結果(万円)
①普段の買い物で商品券を使った金額	60.1%	→60.1% × 111,594→	67,067
②商品券があったので購入を決めた金額	39.9%	→39.9% × 111,594→	44,527
合計	100.0%	111,594	

(注1) 商品券額の構成比は、市民向けアンケートの集計結果より算出。

(注2) 換金総額は換金データの集計値を基に算出。

消費総額は、「商品券での支払い」と「②商品券があったので購入を決めた金額」(追加料金)の合計金額となります。

市民向けアンケートにより、「②商品券があったので購入を決めた金額」については、「商品券額」と「追加現金」での支払い比率により求めることができます。先に求めた「②商品券があったので購入を決めた金額」の「商品券額(4億4,527万円)」に当該比率を乗じて「②商品券があったので購入を決めた金額」(追加料金)を推計した結果、約1億3,803万円になりました。(図表2参照)

図表2 「商品券での支払いと同時に支払った現金等」推計

商品券の使用目的		商品券額	追加現金
②商品券があったので購入を決めた金額	商品券と現金等での支払い比率	1.00	0.31
	内訳推計結果(万円)	44,527	13,803

(注1) 商品券と現金等での支払い比率は、市民向けアンケートの集計結果により算出。

(注2) 商品券額は、「商品券での支払い」の内訳推計結果によります。

以上より、消費総額は12億5,397万円となりました。また消費喚起総額は、「②商品券があったので購入を決めた金額」の総額(商品券金額+追加現金)と捉えられ、約5億8,330万円(4億4,527万円+1億3,803万円)となりました。(図表3参照)

商品・サービスの品目別構成比より試算した品目別の消費喚起額は、下図表4のとおりとなりました。

図表3 消費総額・消費喚起額の推計結果

単位:万円

商品券の使用目的	商品券額	追加現金	計
①普段の買い物で商品券を使った金額	67,067		67,067
②商品券があったので購入を決めた金額	44,527	13,803	[消費喚起総額] 58,330
合計	111,594	13,803	[消費総額] 125,397

図表4 消費喚起額の内訳推計結果(購入商品・サービス別)推計結果

単位:万円

	商品券があったので購入を決めた金額		計
	商品券額	追加現金	
家電製品	2,128	2,169	4,297
食料品(生鮮、加工、飲料等)	14,587	1,317	15,904
車・自転車類	753	902	1,655
娯楽レジャー	741	169	910
時計メガネ	879	574	1,453
玩具娯楽	520	131	651
衣類アパレル	2,345	700	3,045
家具インテリア	707	862	1,569
宝飾・カバン・革製品	502	215	717
台所用品	261	94	355
外食	13,268	2,697	15,965
薬・化粧品	1,363	339	1,702
教養教育	398	104	501
自動車関連	990	665	1,655
住宅関連	418	1,307	1,724
理美容エステ	2,420	670	3,089
その他	2,247	890	3,137
計	44,527	13,803	58,330

(注1) 消費喚起総額の内訳推計結果であり、消費者アンケートの集計結果より求められる品目・サービス別消費額の構成比に、

「②商品券があったので購入を決めた金額」を乗じて算出。

(注2) 千円以下の金額を含め計算しているため、万円単位の表記とした場合、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。

経済波及効果試算においては、推計した消費喚起額を産業連関表の部門分類に対応させ、部門分類別の消費喚起額を試算する必要があります。

市民向けアンケートの品目分類と産業連関表の部門分類の対応は図表5のとおりです。

「家電製品」は電気機械と情報・通信機器に分け、「その他」については消費者アンケートに回答のあった内容を校了し、対応する産業連関表の部門に分けることとしました。

以上に基づき消費喚起額の内訳を推計した結果は、図表6のとおりとなりました。

図表5 消費者アンケートの商品・サービス品目分類と産業連関表部門分類の対応

市民向けアンケート品目分類		産業連関表対応部門
1	生鮮食料品	飲食料品
2	加工食品、飲料等	飲食料品
3	衣類、寝具	繊維製品
4	家具・建具等	パルプ・紙・木製品
5	家電製品の54.7%(家庭用耐久財)	電気機械
5	家電製品の45.3%(教養娯楽用耐久財)	情報・通信機器
6	宝飾品、かばん、革製品	その他の製造工業製品
7	時計、眼鏡	精密機械
8	化粧品、医薬品	化学製品
9	台所用品	その他の製造工業製品
10	自転車・オートバイ	輸送機械
11	自動車関連部品	輸送機械
12	玩具・娯楽用品	その他の製造工業製品
13	住宅(設備等)関連	その他の製造工業製品
14	娯楽・レジャー	対個人サービス
15	外食	対個人サービス
16	美容、エステ等	対個人サービス
17	教養、教育	対個人サービス
18	その他()	その他の製造工業製品

図表6 消費喚起額の内訳推計結果(部門分類別)

部門分類	消費喚起額(万円)
飲食料品	15,904
繊維製品	3,045
パルプ・紙・木製品	1,569
化学製品	1,702
電気機械	2,350
情報・通信機器	1,947
輸送機械	3,310
精密機械	1,453
その他の製造工業製品	6,584
対個人サービス	20,466
計	58,330

(注1)「家電製品」について、総務省統計局より求められます山口市の品目別消費支出の構成比に

基づいて、「電気機械」と「情報・通信機器」に配分しました。

については、「平成26年家計

【2】市内需要増加額の算出

経済波及効果の試算においては、「平成27年山口県産業連関表」を活用して、先に推計した消費喚起額より、経済波及効果試算プロセスにおける市内需要増加額を算出しました。

消費喚起額は、消費者が購入した際の価格であり、出荷時の価格に商業マージンや運輸マージンが加算された価格となっています。

一方、産業連関表は出荷額に相当する生産者価格で評価されるため、先に求めた部門分類別の消費喚起額から「商業マージン」及び「運輸マージン」を除外して生産者価格に組み替える必要があります。

よって市内需要増加額は、この組み換えた生産者価格ベースの消費喚起額に自給率を乗じて算出したところ、算出した市内需要増加額は2億7,106万円となりました。(図表7参照)

図表7 市内需要増加額の試算結果

部門分類	消費喚起額 (万円)	マージン額		需要増加額生産者価格 (万円)	自給率	市内需要増加額 (万円)
		商業 (万円)	運輸 (万円)			
飲食料品	15,904	5,130	512	10,262	0.210	2,156
繊維製品	3,045	1,338	75	1,632	0.100	164
パルプ・紙・木製品	1,569	366	91	1,111	0.164	182
化学製品	1,702	341	46	1,315	0.289	380
電気機械	2,350	408	21	1,921	0.029	56
情報・通信機器	1,947	346	15	1,585	0.000	0
輸送機械	3,310	287	52	2,971	0.214	635
精密機械	0	0	0	0	0.110	0
その他の製造工業製品	8,037	2,542	287	5,208	0.123	642
商業	0		0	10,759	0.592	6,371
運輸	0	0		1,099	0.617	678
対個人サービス	20,466	0	0	20,465	0.774	15,842
計	58,330	10,759	1,099	58,330		27,106

(注1) マージン額は、「平成27年産業連関表(総務省)」の「商業マージン表」及び「国内貨物運賃表」より算出したマージン率を用いて算出しました。

(注2) 自給率は、「平成27年山口県産業連関表」を準用しました。

【3】経済波及効果の試算結果

(1) 試算条件

本試算では、「平成27年山口県産業連関表」を活用し、先に求めた市内需要増加額を基に経済波及効果を試算しました。

(2) 試算結果

商品券の発行総額11億2,000万円に対して、消費総額は約12億5,397万円となり、うち消費喚起総額は約5億8,330万円となりました。

この消費喚起総額に対して、直接効果(=市内需要増加額)は約2億7,105万円であり、経済波及効果(総合効果)は約3億9,101万円、市内需要増加額に対する波及効果倍率は1.44倍となりました。

なお、発行冊数より算出されるプレミアム分の総額(3億2,000万円)に対する経済波及効果(総合効果)の倍率は約1.22倍となりました。

経済波及効果試算結果

(1) 入力内容

単位：万円、率

需要増加額	58,330
市内需要増加額A	27,105
消費転換率	0.604

(2) 分析結果

単位：万円、倍

	生産誘発額	粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額
直接効果	27,105	15,354	8,002
第1次間接波及効果	7,276	4,000	1,808
第2次間接波及効果	4,720	3,076	1,207
総合効果 B	39,101	22,430	11,017
波及効果倍率 B/A	1.44		
雇用誘発数(人)	4,336		

生産誘発額

商品券の発行により増加した2億7,105万円(直接効果)により、どれだけの生産増加をもたらすのかを算出した金額が7,276万円(第1次間接波及効果)、更にその生産増加が雇用者所得の増加をもたらし、その所得の増加が消費を増加させ、生産をどれだけ増加させるかを算出した金額が4,720万円(第2次間接波及効果)となり、その生産を誘発した総合効果額は3億9,101万円となりました。

粗付加価値誘発

生産誘発額のうち、雇用者所得や営業利益、減価償却費の合計(粗付加価値誘発額)は、直接効果によるものが1億5,354万円、第1次間接波及効果によるものが4,000万円、第2次間接波及効果によるものが3,076万円となり、その総合効果額は2億2,430万円となりました。

雇用者所得誘発額

粗付加価値誘発額のうち、雇用者所得を誘発した額は、直接効果によるものが8,002万円、第1次間接波及効果によるものが1,808万円、第2次間接波及効果によるものが1,207万円となり、その総合効果額は1億1,017万円となりました。

【4】総評

令和4年度宇部市プレミアム付商品券の経済効果を令和3年度宇部市プレミアム付商品券と比較すると図表9のとおりとなりました。

この表によると、令和4年度は消費喚起額が2億1,930万円の増加、市内需要増加額が1億205万円の増加、経済波及効果が1億4,701万円の増加となっており、大きな成果を残すことができました。

また、経済波及効率(プレミアム額に対する経済波及効果)も1.22倍で、令和3年度を上回ることができ、プレミアム額投資分の経済効率性が令和3年度よりも高かったと考えられます。

図表9 令和4年度宇部市プレミアム付商品券 経済効果比較表(令和3年度対比)

単位:万円

	令和4年度 A	令和3年度 B	比較増減 A-B
発行総額	112,000	91,000	21,000
プレミアム額(A)	32,000	21,000	11,000
消費喚起額	58,330	36,400	21,930
市内需要増加額	27,105	16,900	10,205
経済波及効果(B)	39,101	24,400	14,701
経済波及効率(B)／(A)(倍)	1.22	1.16	0.06

(注1) 令和3年度の市内需要増加額及び経済波及効果は消費喚起額を基に推計。

図表10 経済波及効果(総合効果)の部門別内訳

単位:万円

部門名	生産誘発額			
	直接	第1次	第2次	合計
01 農林漁業	0	429	53	482
06 鉱業	0	3	1	4
11 飲食料品	2,156	551	143	2,850
15 繊維製品	164	15	10	189
16 パルプ・紙・木製品	182	67	6	255
20 化学製品	380	126	43	549
21 石油・石炭製品	0	112	64	176
22 プラスチック・ゴム製品	0	58	9	67
25 窯業・土石製品	0	26	4	30
26 鉄鋼	0	6	0	6
27 非鉄金属	0	2	0	2
28 金属製品	0	22	3	25
29 はん用機械	0	1	0	1
30 生産用機械	0	2	1	3
31 業務用機械	0	0	0	0
32 電子部品	0	1	0	1
33 電気機械	56	1	2	59
34 情報通信機器	0	0	0	0
35 輸送機械	635	87	30	752
39 その他の製造工業製品	642	31	13	686
41 建設	0	92	23	115
46 電力・ガス・熱供給	0	805	200	1,005
47 水道	0	186	44	230
48 廃棄物処理	0	201	21	222
51 商業	6,367	1,010	650	8,027
53 金融・保険	0	286	352	638
55 不動産	0	368	1,122	1,490
57 運輸・郵便	678	914	257	1,849
59 情報通信	0	358	199	557
61 公務	0	23	51	74
63 教育・研究	0	10	97	107
64 医療・福祉	0	2	389	391
65 他に分類されない会員制団体	0	62	101	163
66 対事業所サービス	0	1,137	247	1,384
67 対個人サービス	15,845	183	572	16,600
68 事務用品	0	51	7	58
69 分類不明	0	48	6	54
合計	27,105	7,276	4,720	39,101

(注1)「平成27年山口県経済波及効果分析ツール(37部門)」を用いて算出しました。

問6 どのような目的で商品・サービスに商品券を利用されましたか。

目的別に商品券で支払ったおおよその金額をご記入ください。(現金での支払い金額は記入しないでください)

商品券の使用目的	商品券での支払い
普段の買い物で使用	① 円
普段の買い物以外で使用 (商品券があるから購入した商品・サービス) ^{※2}	② 円
合計	③ (①+②) 円

※2) 商品券があるから、普段なら買わないものや、いつもより多少高価な商品・サービスを購入、またはいつもより多めに購入した、など
例) 商品券がきっかけで普段買わないドライバー(9,800円)を、商品券で9,000円分、現金で800円分購入した場合
①に0円、②に9,000円と記入

問7 問6の②に記入した金額について、該当項目に「A)商品券での支払額」と「B)Aと同一会計時の商品券以外(現金・キャッシュレス決済)での支払額」を分けて記入してください。(例:9,800円のドライバーを購入した)

番号	購入した商品・サービス	A)商品券での支払額	B)Aと同一会計時の商品券以外(現金・キャッシュレス決済)での支払額
(例)	家電製品	9,000円	800円
1	生鮮食料品	円	円
2	加工食品、飲料等	円	円
3	衣類、寝具	円	円
4	家具・建具等	円	円
5	家電製品	円	円
6	宝飾品、かばん、革製品	円	円
7	時計、眼鏡	円	円
8	化粧品、医薬品	円	円
9	台所用品	円	円
10	自転車・オートバイ	円	円
11	自動車関連部品	円	円
12	玩具・娯楽用品	円	円
13	住宅(設備等)関連	円	円
14	娯楽・レジャー	円	円
15	外食	円	円
16	美容、エステ等	円	円
17	教養、教育	円	円
18	その他()	円	円
	合計	② 円	円

※問6の②の金額と一致させてください

最後に、宇部市プレミアム付商品券事業へのご意見を自由にお聞かせください。

～ ご回答ありがとうございました ～

「令和4年度宇部市プレミアム付商品券」参加店舗向け利用アンケート

◇FAX 送信先: 宇部市プレミアム付商品券事務局 (FAX:0836-33-3900)

◇提出期限: 令和5年1月31日(火)

店舗名 _____

電話番号 (_____) - _____ 経営者の年代 _____ 代

業種(主なものを下記から1つに✓をお願いします。)

●飲食業 居酒屋、スナック・バー、レストラン、その他(_____)

●小売業 食料品、コンビニ、ドラッグストア、スーパー、家具・寝具、書籍・文具、
雑貨、家電、衣類・身の回り品、生花・園芸、その他(_____)

●生活関連サービス業
理容・美容、クリーニング、エステ・ネイル、その他(_____)

●その他 宿泊業(旅館、ホテル等)、娯楽業(スポーツクラブ等)、学習支援業(学習塾等)
療術業(鍼灸、整体等)、運輸業(タクシー等)その他(_____)

~~~~~

※以下、該当する番号に○を付けてください。

問1. 昨年度(令和3年度)の宇部市プレミアム付商品券事業には参加されましたか。

ア 参加した (⇒問3へ)

イ 参加していない(⇒問2へ)

問2. 宇部市プレミアム付商品券の事業を知ったきっかけは何ですか。

ア ウェブサイトを見て      イ のぼりやポスターを見て      ウ 新聞を見て  
エ 広報うべを見て      オ 人から聞いて      カ その他( \_\_\_\_\_ )

問3. 今後、同様の事業が仮に再度行われる場合、また参加されますか。

ア 参加する      イ 参加しない(理由: \_\_\_\_\_ )

問4. 昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均客数は増えましたか。

ア 1割未満増えた      イ 1~2割増えた      ウ 2~3割増えた      エ 3割以上増えた  
オ 1割未満減った      カ 1~2割減った      キ 2~3割減った      ク 3割以上減った  
ケ 変わらない

裏面にも設問があります

問5. 昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均売上は増えましたか。

- ア 1割未満増えた      イ 1～2割増えた      ウ 2～3割増えた      エ 3割以上増えた  
オ 1割未満減った      カ 1～2割減った      キ 2～3割減った      ク 3割以上減った  
ケ 変わらない

問6. 換金の頻度(月3回)は適切だったでしょうか。

- ア 適切      イ 少ない(月\_\_\_\_回必要)      ウ 多い

問7. 店舗において現金以外の決済手段を導入していますか。

- ア 導入している      (⇒問8へ)  
イ 導入していない      (⇒問9へ)

問8. 導入している決済手段の種類は何ですか。該当するもの全てに○を付けてください。

- ア クレジットカード      イ デビットカード  
ウ 電子マネー(例:nanacco、maruca、交通系 IC カードなどを含む)  
エ PayPay      オ d払い      カ auPay      キ LINEPay      ク 楽天 Pay  
ケ その他(      )

問9. 導入していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。

- ア コストがかかるから  
イ 導入するのが手間だから  
ウ キャッシュレスの取引に慣れていないから  
エ その他(      )

問10. 燃油・原材料・仕入価格の上昇による経営への影響はどの程度でしょうか。

- ア 危機的な悪影響がある      (⇒問11へ)  
イ かなり悪影響がある      (⇒問11へ)  
ウ 多少悪影響がある      (⇒問11へ)  
エ ほとんど影響がない      (⇒設問は以上になります)

問11. 悪影響の内容として該当するもの全てに○を付けてください。

- ア 客単価の減少      イ 来店者数の減少      ウ 関連商品の値上がり  
エ 燃料代の値上がり      オ 電気代の値上がり      カ 取引先の減少  
キ その他(具体的に      )

※最後に、商品券事業へのご意見を自由にお聞かせください。

◆アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました◆